



右目が光を失いかけた恐怖心・失望感から解き放たれて希望の光が見えた思いでした。角膜を頂けたことが嬉しく、これからも頑張つて生きていこうと強く思いました。そして頂いた角膜は長い間私を支えてくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

35年の間私の生活を守つてくれた角膜ですが、数年前から角膜の弱りと白内障が重なって視力低下が進んできました。そして、今まで頼ってきた左目にも白内障の症状がでてきたため、再び不安な日々を送ることになりました。

これから的事を思うと「手術しなければどうなるのか?」「右目は再手術が可能な状態か?」など心配なことばかりでしたが、先生に角膜の再移植について相談させていたきましたところ「手術は出来ますよ」と詳しく説明を頂き、2回目となる手術をお願いしました。

今度の手術は全身麻酔で行われ、3時間後には病室のベッドの上でし

は無く、しばらくの間安静にした後は、普通の動作・行動が許されて驚きました。前回と違つて体の固定は無く、しばらくの間安靜にした後は、普通の動作・行動が許されて驚きました。

これも医療技術の進歩、携わる先生方のお陰によるものと感謝の念にたえません。

お陰さまで、とても良く見えるようになり喜んでおります。角膜をご提供くださいました尊いご遺志に感謝を忘れず、大切にしてまいります。そして、残された人生を少しでも社会に恩返しきるよう頑張ります。

最後になりましたが、神戸大学病院の先生方、看護師の皆様、兵庫アイバンクの皆様、大変お世話になりました。有難うございました。

父が生前よく言つておられます!「俺は死んだら、目でも耳でも腎臓でも肝臓どこでもええから使えるところは使つてもええで!俺は死んでいるねんから何も思わないし、痛くもない!困っている人がいたら、おれのんでもよかつたら使つてほしい!」この言葉を思い出し、市民病院の先生に相談したところ、「眼の角膜の提供が出来る」と言つています。

僕も、車やバイクをよく乗るので、是非生命の終わりが来たのなら、使える臓器、目など使える所は、次の方へと「生命的バトンタッチ」をしたいと思います!またそこで人の役に立てることを人としての誇りと考えています!

天国のお父さんへ「あなたの目は次の方の役に立つているよ!役に立つているよ!あなた自身も(眼球摘出は医療行為だから在宅で亡くなつてもきっと病院で眼球を搬送して、病院

で眼球を摘出するんだうなあ、死んでからそんな

で行われ、3時間後には病室のベッドの上でしました。

は市民病院にて78歳で天國へ行きました。父は、とても優しく、面倒見の良い人でした。母を愛し、僕といもうと兄弟3人を愛情持つていつも笑顔でいました。

冗談話をする人でした。は必ず死がきます。その時自分の体の一部でも今困っている人がいれば、「生命のバトンタッチ」をすれば、もつと優しい社会、もつと人間らしく終わると私は思っています!このことを頂きたいのと協力をしてもつと多くの人に知つてほしいと心から思っています。

僕が献眼に至ったきっかけは、私が参列した近所のおばあさんのお葬式でした。

おばあさんは、誰かの役に立ちたいと生前から言つておられ、大屋ライオンズクラブの勧めでアイバンクに登録され、角膜を提供されたことを知り、おばあさんの崇高な考え方と家族の受け入れに對し大きな感動と衝撃を受けたことを今でも覚えています。

家族として父の最後の望みをかなえてあげようと主治医と共に在宅での看取りを決めました。

無事に父の眼球は摘出され、義眼を入れて頂きました。本当に父の顔は仏様のように美しい顔と姿でもありました。

父の献眼を経験して小畠美由紀様 合掌!

このたび大屋ライオンズクラブの方の積極的な勧めにより、私自身のみならず家族間で角膜提供について話をする機会を持つ事ができ、父も賛同してくれました。

僕も、自分の命に何かあれば一緒にすることからね!

角膜提供をされたご遺族の方の声

尼寄領一様 「生命のバトンタッチ」をすれば、もつと優しい社会になるはず。大変感謝しています。平成25年1月4日に父

最後になりましたが、神戸大学病院の先生方、看護師の皆様、兵庫アイバンクの皆様、大変お世話になりました。有難うございました。

「あなたのお父さんへ」「あなたの目は次の方の役に立つているよ!役に立つているよ!あなた自身も(眼球摘出は医療行為だから在宅で亡くなつてもきっと病院で眼球を摘出するんだうなあ、死んでからそんな

立派だよ!本当の優しさを見せてもらつたよ!あれがどう!」

角膜提供をされたご遺族の方の声

天國のお父さんへ「あなたの目は次の方の役に立つているよ!役に立つているよ!あなた自身も(眼球摘出は医療行為だから在宅で亡くなつてもきっと病院で眼球を摘出するんだうなあ、死んでからそんな

立派だよ!本当の優しさを見せてもらつたよ!あれがどう!」

私は保健師をしており、私の死後に体が役に



ことまでるのは面倒や
し、こんなことは病院で
亡くなる人しかできな
いことなんや。」と思ひ、
やつぱりそんな面倒で大
変なことはやめようかと
いう気持ちが頭をよぎり
ました。

そこで、半ば断るつもりでライオンズクラブの方へ連絡を入れたところ、「眼球摘出は家でできる。夜中でもいつでもアイバンクの人が待機して医師と連絡して家まで来てくれるから亡くなつたらすぐ連絡したらいいし、せつかくお父さんが意思を示しているのだから、ぜひその思いを受けて提供してほしい。また神戸から来られるので時間がかかるけど、角膜が乾燥しないように濡れたガーゼなどで瞼を覆つてもらつていたらいい。」とのアドバイスをいたぎ、てつきり近くの病院ですると思っていたので、家でできると聞きました。それなら父の意思を受け止め、目の不自由な方のために父の角膜を提供

しようと、家族も気持ちが固りました。

その日の夜中に父は亡くなり、本当に夜中で申しつけない気持ちもありましたが、ライオンズの方の心強いアドバイスのおかげで、迷わずアイバンクの方へ連絡を入れさせていただきました。

実際には家に到着されるまでに思ったより時間はかかりましたが、家での眼球摘出に、私も母も立ち会い見学までさせていただきました。病院で亡くなつた方にはできない経験もさせていただきました。摘出後も義眼を入れ、瞼の縫合により外見では摘出したことはわからぬ状態にしていただきました。

摘出にあたっては、遺族への意思確認、感染症がないかを見るための血液検査、眼球摘出と最後の仕上げなど、一連の作業には約1時間半程度かかります。悲しみよりも誰かの役に立てたことや父の思いを果たすことができた

ました。

今回の父の献眼を経験して感じたことは、具体的な献眼の仕組みはまったく知らないというと、誰かの後押しがないと登録や実際の献眼に至るには難しいこと、医療関係者の看護師でもやめる方向にアドバイスをしてしまい、本人や家族の意思をぐらつかせることがあるということです。でも逆に、父の葬儀終了後、お寺さんが「お父さんはええことしなつたな。わしもさつそく登録するわ。」と言つてくださいました。わしもさつそく登録するわ」と言つてください、私が感銘を受けたように葬儀に参列された方にも登録の輪が広がつていくきっかけにもなるということです。

私の場合には大屋ライオンズクラブの方の積極的な後押しがあったことで実際の献眼に至つたわけですが、アイバンク自体も職員は少なく、啓発や身近な個々人へのかけ声には限界があると聞いています。今後はこのような実際の経験を広く多くの方に知つていただき、一人でも多くの方がアイバンク

登録されるとともに最終的に実際の献眼に至るよう、微力ながら協力をさせていただきたいと思ひます。

仏壇の前の多くの感謝状を見るにつけ、父の残しててくれた崇高な遺志に改めて思いを馳せるとともに、どこかで父が誰かの目となり元気に生きていると思いながら、本人及び家族が満足できる時期が迎えられたと感謝をしておられるお方に角膜を移植する手術をいたしました。おられるお方に角膜を移植する手術をいたしました。眼科医と一緒に御家にお尋ねして眼球をいただき、すぐに移植を必要とされることはあります。からだが朽ちてゆくときに角膜を他の元気なお方に移植すれば、一部とはいえ他の人の身体を借りて自分が生き続ける。とも解釈できます。自分の角膜を他の人に移植するということは、自分が無くなつた後も、自分の目は他の人の身体を借りて物を見続けてゆく。なんとすばらしく、角膜移植の意義をもう一度考え方でしてみたいと思います。

不老不死は古今東西皆の願いであります。もちろん人生には限りがあります。からだが朽ちてゆくときに角膜を他の元気なお方に移植すれば、一部とはいえ他の人の身体を借りて自分が生き続ける。とも解釈できます。自分の角膜を他の人に移植するということは、自分が無くなつた後も、自分の目は他の人の身体を借りて物を見続けてゆく。なんとすばらしく、角膜移植の意義をもう一度考え方でしてみたいと思います。

ご連絡は、公益財団法人兵庫アイバンク
TEL 0120-69-1010

アイバンクについて
公益財団法人兵庫アイバンク
事務局長兼コーディネーター
渡邊 和誉



兵庫アイバンク副理事長
兵庫県眼科医会会長
加古川東ライオンズクラブ
平松邦夫

私の場合には大屋ライオンズクラブの方の積極的な後押しがあつたことで実際の献眼に至つたわけですが、アイバンク自身も職員は少なく、啓発や身近な個々人へのかけ声には限界があると聞いています。今後はこのような実際の経験を広く多くの方に知つていただき、一人でも多くの方がアイバンク

登録されるとともに最終的に実際の献眼に至るよう、微力ながら協力をさせていただきたいと思ひます。角膜移植の登録をされておられる方がご不幸となられたり、され

ば眼球をいただくことは出来ません。眼球を差し上げた場合、目はへこむことなくきれいに縫い合われて外見上は元のままになります。少なくとも見た目の支障はありません。

不老不死は古今東西皆の願いであります。もちろん人生には限りがあります。からだが朽ちてゆくときに角膜を他の元気なお方に移植すれば、一部とはいえ他の人の身体を借りて自分が生き続ける。とも解釈できます。自分の角膜を他の人に移植するということは、自分が無くなつた後も、自分の目は他の人の身体を借りて物を見続けてゆく。なんとすばらしく、角膜移植の意義をもう一度考え方でしてみたいと思います。

ご連絡は、公益財団法人兵庫アイバンク
TEL 0120-69-1010

アイバンクについて
公益財団法人兵庫アイバンク
事務局長兼コーディネーター
渡邊 和誉

YCE
冬季派遺營

冬季派遣学生帰国報告

私は、12月21日～1月9日まで、約20日間マレーシアに、交換留学させていただきました。行くまでは、英語が通じるのか、家族と離れて大丈夫なのか、という不安がこみあげていましたが、行つてみると、ホームファミリーが温かく、そしてまるで家族のようになります。私のを迎えてくださったので、その不安は除かれ充実した時を過ごすことができました。

また、ホームファミリーには私と同級生の女の子と一つ年下の男の子がいたので、色々な話で盛り上がりつつ、買い物へ行ったり、一緒にトランプで遊んだりして、ティーンならではの遊びもできて楽しみました。

また、ご両親にも大変お世話になりました。私が喜ぶ場所や親戚の集まり、そして、美味しい御飯屋さんにもたくさん連れて行つてくれました。ホームファミリーは本当に日本が大好きな家族

で、たくさん日本の事を聞かされました。しかし、私の知らないことが多く、逆に教えてもらつている感覚でした。やはり自国の事をもつと知らなければならないと実感しました。

行くまでは、英語が通じるのか、家族と離れて大丈夫なのか、という不安がこみあげていましたが、行ってみると、ホーミュファミリーが温かく、そしてまるで家族のようになります。そこで、私はお迎えしてくださったので、その不安は除かれ充実した時を過ごすこと

キヤメロンハイランドでのキャンプでは、関西組と名古屋組が一緒に、15名の日本のメンバーとホームファミリーの代表（同じ年代の人）が集いました。そして、夜にはそのメンバー全員が集まり、チームを組んで歌を歌つたり、異文化交流をしたりして過ごしました。

二ケーション能力と英語力を身に着けることができました。そうした目に見てとれるものもある一方で、自分の心や知識などを著しく成長できたと思います。また異なる文化を持つ生活をして当たり前だと思っていたことが実は当たり前でないこともあります。私も気づき新たな発見になりました。私はこの機会をいただき本当に良かったと思いました。左難う御座いました。



小林未佑

果物を買いに行きます。加工せずにそのまま食べても甘くてとてもおいしかつたです。また、ポインセイジンベリーと呼ばれる黒っぽいベリーを、ホストファザーがホールキーポーキアイスクリームにのせて食べさせてくれました。日本とは違う食材と調理法で出される食事は、まさに異文化体験でした。夏のクリスマスも初めてでした。サーフィンに乗ったTシャツのサンタクロースには会えませんでしたが、親戚がみんな集まって、プレゼント交換をしたり、特別な食事を楽しんで、賑やかに過ごしました。また、農場もあって、羊や馬、鶏、牛と触れ合う機会もありました。

19日間の後半はサマーキャンプに参加しました。ここでは本当にたくさんのお出会いがありました。ホームステイとは違つて、オーストラリア、インド、マレーシア、イタリア、ブラジル、アルゼンチンなど8ヶ国から集まつた参加者たちは、母国語がそれぞれに違うので、共通言語は英語

しかりません。私は、何年も英語を勉強してきたのだから、なんとかなるとたかをくくつていましたが、英語圏以外の人との会話で、自分の英語力がいかに限られたものだつたかを痛感しました。それでも、なんとかお互に必死にジエスチャ―を交えて話すうちに、少しずつコミュニケーションを取れるようになりました。みんなで協力してキャンプ生活をし、バンジー・ジャンプや、娯楽を超えた本気のアスレチックも体験しました。また、瀧や川、日本では考えられないような泥だらけの沼地にも入りました。マオリ族の伝統民族舞踊であるハカを習ったことも貴重な体験でした。そして、参加者全員でカウントダウンを叫んで、花火で新年を祝つたことも、言葉では伝えられないくらいの感動でした。ニュージーランドで、様々な国の人たちと出会い、時間を共有し、共に行動することで、私の中



やってみましょうや!

にあつた無意識の偏見が消えて、いつた気がします。文化の違いを否定するのではなく、お互いを受け入れ、尊重し合つて仲間になつていく姿に刺激を受けました。いちばん仲良くなれたのがイタリア人でした。きっかけは彼らが日本に興味を持つてくれていたからでした。日本に来たこともあって、日本の歌も知つていきました。そのことが思いの外うれしくて、私も一生懸命英語を話していました。

イタリアの歌を教えてもらいました。ほんの小さなことからつながりが生まれ、国際交流が始まるのだと実感しました。

今私のには新しい夢があります。今までは英語を上達したいと漠然と思つて、いただけでした。思つて、いただけでしたが、本気で使えるようになります。もう一度彼女に会えた時には、今以上に成長した自分を見せたいです。このプログラムを勧めてくれた祖母に感謝しています。そして新しい自分に出会うチャン

スをくれたライオンズ関係者の皆様、本当にありがとうございました。



4R1Z

村岡ライオンズクラブ

独居老人激励訪問

3月9日（金）から約1週間かけて、会員が香美町内80歳以上のひ

とり暮らしの方々160人を訪問しました。この激励訪問は30年前から続けており、直接お顔を見ながら声かけするととも

に、カラソコエの鉢花を

植えます。今年も花を受けてください」と笑顔で話

してました。（吉瀬龍夫）

1R2Z

姫路中央ライオンズクラブ

高校生春休み 血液センター見学ツアー

幹事 池本史朗

去る、三月二九日に高

校生男性五名、女性三十

名の三十五名とクラブ会

員七名と姫路みゆき献血

ルームの女性職員さんと

で大阪府茨木市にある「近畿ブロック血液セン

ター」へバスで見学に行

村岡LC

鉢植え手渡し激励

ひとり暮らし高齢者を訪問

村岡ライオンズクラブ
（地主明会食の会員が、し、カラソコエの鉢植え
香美町村岡区のひとり暮らしを贈っている。



カラソコエの鉢植えを差額で受け取る中村さん（右）

香美町村岡区会

きました。

中村さんは「本当にあ

りがたい。来年も花を受

け取れるように元気でい

ます」と笑顔で話

していました。（吉瀬龍夫）



これは、高等学校に「兵庫県赤十字血液センター姫路営業所」の方が、高校生向けに「高校生対象献血セミナー」を実施されているのにに対して、我がクラブは高等学校を紹介し、協力をしていますが、献血した血液は、どのようにしてどのようにしてどのように使われていくのか、実際に見て経験していただく施設でした。

高校生の募集は、「姫路みゆき献血ルーム」へ募集チラシを渡し、お友達と一緒に申し込んでねと声を掛けていただきました。今回は、保護者の承認を頂く事になつたので、二度手間な事に

なつてしまい、考慮する事かも知れません。参加者の学生から「こんな良い事姫路駅前で配つて欲しかったな。私は来られたけど、知つていたら来たい人がもつといたと思う。」と心強い言葉を頂きました。アンケートの結果三十五名中二十一名がみゆき献血ルームで案内を貰つて、十一名が友達に誘われ、親に勧められた方と、スマホのHPを観た人がそれぞれ一名でした。

さて、当日は姫路駅南のバスターミナルへ集合。みんな早く集合して名札をつけたら出発。少しだけですが、学生にお菓子の袋詰めをお配りしました。大喜びです。行きは白血病を題材にしたDVD「ありがとうございますの手紙」を見ながら新しくできた新名神を通じ近畿ブロック血液センターへ向かいました。

予定の十時より少し遅れましたが、近畿ブロック血液センターの所員さん、ボランティアの方、姫路から別便で来られた姫路営業所の所員さんにお出迎えしていただきま

した。先ずは研修室へ入り、プロジェクトで血液型の種類や献血の重要性や、血液のお話をした。O型の分類だけでなく、他にも沢山の分類の仕方があるのであれば、みんな驚きをもつた。

そして、二班に分かれ実際に作業している所へ見学に行きました。赤血球・白血球・血小板等大きさが違うので、フイルターを通して分類していく様子をみんな、神妙な顔で観ていました。献血する時に最初の血液二十五mlは皮膚の破片やゴミなどが付いているので別の袋に収納され、その血液で、色々検査をされるそうです。合理的な方法だなあとみんな感心していました。世界で初めて献血したのが一六六七年に小羊の血液を青年に輸血して回復をした献血の歴史などを真剣な眼差しで聞いていたのがとても印象的でした。血液の白血球が輸血すると悪い症状が起こるので、成分分けして白血球を取り除いている事も知り、勉強になつたそう

です。そのあとは弁当をバス車内で食べ、カツブヌードルミユージアムへ行きました。みんな思い思ひのカツブに絵を描きラーメンを入れていただき四種類のトッピングに好きな出汁味を入れて、自分だけのマイラーメンのできあがり。学生もメンバーも子どもになつたよう一生懸命作つてました。

記念撮影を撮つて姫路まで帰つてきました。帰りも車中で「八月の二重奏」のDVDを観てみんな感涙していました。

ツアーレ最後にアンケートを取りました。参加者のうち献血をした事のある方は二十五名中十七名でした。これら献血をするは二十六名の回答、分からぬのが六名ですが、わからぬの回答の方に最後の意見にこれから献血に行きたいと希望が書かれていました。見学ツアーモ三十四名の方が良かつたと言つてくださいました。クラブとしては、液センターでの研修ばかりでは・・・と思ひ研修を九十分コースにしてマ



マイカップを作りに行つたのですが、「とても楽しました。ありがとうございました。ありがとうございました。ラーメン

IRIZ
姫路大手前ライオンズクラブ
結成50周年記念大会を



16時20分より、姫路キヤツスルグランヴィリオホテル3階大広間にて、姫路市長石見利勝様、兵庫県中播磨県民センターセンター長田中基康様、ライオンズクラブ国際協会元国際理事L西川義規、ライオンズクラブ国際協会335-D地区会長ガバナーレ小林寛をはじめ、335-D地区地区役員の皆様、そしてスポンサークラブ、姉妹提携クラブ、エクステンションクラブの皆様、総勢250名の多數の方々



ンズクラブメンバーは今までに残されてきた諸先輩の意義と深い伝統をこれから歩むべき新しい時代のライオニズムで、将来のある融合を探り、地域に密着した奉仕ができるライオニズムとして、来るべき60周年～70周年に向けて1R1Zの導き手となるようなライオニズムをメンバー一同が心新たに邁進することを誓います。



やってみましょうや!

4R1Z

大屋ライオンズクラブ

献血と献眼登録の協力
3月30日 大屋地域局前にて献血と献眼登録の協力をしました。



5R1Z
龍野ライオンズクラブ
薬物乱用防止教室



1月29日・30日の2日間、わたり、たつの市立新宮小学校と龍野小学校において、たつの市立新宮小学校にお



いて薬物乱用防止教室を実施した。プロジェクトマーを使って講演形式で児童たちには薬物乱用防止小学生向き読本と3D下敷きを配布して見ながら学習してもらつた。標本で薬物を紹介もし身近に潜んでいる薬物の怖さを知つてもらつた。教室の締めくくりには、皆でゼッタダイダメ!と手を挙げながら唱えた。

出前講座を実施

3月6日(火)に兵庫県立龍野北高等学校の2年生を対象に出前講座を実施。全体基調講演では「人として生きる」をテーマに自分の持つている可能性を実現することの大しさ、社会をつくっているのは人(共生)など社会人としての心構えで大切な事を学ぶ場となつた。また、分科講演では6学科でそれぞれ専門の方の



5R1Z
山崎ライオンズクラブ
第13回宍粟市さつきマラソン大会



5R1Z
はりま一宮ライオンズクラブ
薬物防止協議会へ助成
4月25日薬物乱用防止活動を支えるために、西播磨地区薬物乱用防止指導員協議会へ助成金を贈りました。



話を持った。熱心に聞き、これから目指す職業の大切な事を学べたと生徒の声を聞けて、出前講座の意義の大きさを感じた。

4月15日(日)第13回宍粟市さつきマラソン大会が開催されました。大会当日は天候にも恵まれ、全国から2,497名のランナーが参加されました。

警備のボランティアとして当クラブのメンバーも参加し、沿道から声援をおりました。

3月19日宍粟市役所にて、宍粟市との災害時ボランティア協定を結びました。

3月15日宍粟市一宮町神戸地区の2ヶ所で朝の登校時に交通安全街頭指導を行いました。

交通安全街頭指導